

記者発表資料

令和3年8月4日
九州地方整備局
延岡河川国道事務所

延岡市の中学3年生が「一日事務所長」に就任

～全日本中学生水の作文コンクール内閣総理大臣賞受賞者が業務体験～

第43回「全日本中学生水の作文コンクール」において、全国13,025件の応募のなかから、最優秀賞にあたる内閣総理大臣賞を受賞された、延岡市立恒富中学校3年の永谷和希（ながたにかずき）さんに、国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所の「一日事務所長」を体験していただきます。

- 1) 日 時：令和3年8月11日（水） 9時～
※当日の天気が荒天等の際には、延期の場合もあります
- 2) 場所等：延岡河川国道事務所管内と祝子ダム（別紙参照）
①09時00分～09時30分 委嘱式、概要説明 等
②09時30分～ 延岡河川国道事務所管内点検 等
③13時20分～14時00分 祝子ダムの点検 等
- 3) 内 容：永谷さんには、一日事務所長として、河川管理施設等の点検・巡視などに携わっていただきます。
- 4) 取 材：上記①と③の時間帯のみ報道機関の方々のみ公開となりますので、ご理解のほどお願いいたします。
なお、テレビカメラ等による撮影は、体験の妨げにならないよう、職員のご案内に従って頂きますよう、よろしく申し上げます。
※入室の際は、マスクの着用、検温、手指消毒（退場時も含む）及びソーシャルディスタンスの確保にご協力をお願いします。
※①もしくは③の取材を希望される方は、別紙に記入のうえ、8月10日12時までに、FAXにて事前申し込みをお願いします。

●全日本中学生水の作文コンクール

「水の週間」の行事の一環として、次代を担う子どもたちの水資源に対する理解と関心を深めるため毎年実施されており、令和3年度で43回目となるもの。

今回、永谷さんは宮崎県内で唯一入賞され、さらに最優秀賞にあたる内閣総理大臣賞を受賞されており、受賞者は希望に応じて「一日事務所長」の体験をすることが出来るものです。

【問い合わせ先】

【全体に関わること】

国土交通省 延岡河川国道事務所 技術副所長 杉田 聡
総務課長 前橋 克俊
調査第一課長 大塚 健司
〒882-0803 宮崎県延岡市大貫町1丁目2889番地
電話：0982-31-1155（代）

【③祝子ダムに関わること】

宮崎県 延岡土木事務所 河川砂防課 課長 脇田 俊也
ダム担当主幹 水本 和弘
〒882-0872 宮崎県延岡市愛宕町2の15
電話：0982-21-6227

F A X 送 信 票

国土交通省 延岡河川国道事務所 調査第一課 宛

(FAX 0982-33-6907)

※本紙のみをそのままFAXしてください(8月10日(火)12時00分×)

延岡河川国道事務所 一日事務所長体験(取材希望)

日時：令和3年8月11日(水)

①09時00分～09時30分 委嘱式 ※延岡河川国道事務所内 会議室

③13時20分～14時00分 祝子ダム点検 ※祝子ダム

希望する取材先	①延岡河川国道事務所での委嘱式のみを取材 () ③祝子ダムにおける点検状況のみを取材 () ①と③の両方とも取材 () ※()内に○か×を必ず明記願います
社名	
担当者	氏名： 役職等：
連絡先	住所： 電話番号： メールアドレス：
参加人数	
利用車両台数	
車両ナンバー	1台目： 2台目：

※新型コロナウイルス感染防止対策として、取材されるスタッフの方は最小人数でお願いするとともに、発熱等症状がある方は取材を控えて頂きますよう重ねてお願いいたします。場合によっては、こちらから参加人数の調整等させて頂く場合もありますので、ご理解願います。

※途中交通事情等により、開始時間が前後する場合がありますので、ご理解ください。

※当日荒天等予想され、延期等判断の際には、上表担当者の方に連絡いたします。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所
調査第一課 課長 大塚健司
専門官 長友明人

TEL 0982-31-1191

位置図



【延岡河川国道事務所 詳細】



【祝子ダム 詳細】



内閣総理大臣賞（最優秀賞）

私の夢と大切な水

宮崎県

延岡市立恒富中学校

三年

永谷

和希

私は将来、和牛繁殖農家になろうと思っている。繁殖農家の仕事は母牛の世話をして、良い子牛を産ませ市場に出荷することだ。良い和牛を育て、和牛のオリンピックに出場すること、品評会に参加して良い成績を取ることも私の夢である。私がこの様に考えるのは、祖父の影響が大きい。私の家は、稲作と和牛の繁殖農家をしていて、現在も五頭の母牛と三頭の子牛を飼育している。私自身も幼いころから祖父の手伝いをしてきた。祖父の育てた子牛は百万円以上の値をつけたこともあり、いつか祖父を超える繁殖農家になることが私の目標である。良い牛を育てるために大切なのは、日々の餌やり、手入れ、良い健康状態を保つことだと思っている。私の家では、地下四十三メートルから地下水を引き、除去装置を使つてろ過した軟水を、家族も牛も飲んでる。この水と、それを利用して育てた米や野菜のお陰か、私自身も大変健康で、小学校・中学校を通して、無遅刻、無欠席で過ごせている。人間同様、牛にとつても、良い水と安全な餌が大切なことは言うまでもない。特に、牛はしゃべることができないから、人間が良い水と餌を選んで与えることが大切になってくる。牛の餌は牧草と稲わらだ。稲わらは、もちろん田植えをして米を育て、収穫した後のわらである。米や牧草を育てるためにも、安全な水は欠かせない。また、日光や雨も農業にとつては必要不可欠のものである。まさに水は植物・動物の命の源だと思ふ。

水の循環について学び、調べてみると、地球上の水の総量は、およそ四十億年前からはほとんど変わっていないという。日本は豊かな水資源に恵まれていて、蛇口を開けば安全な水が出てくるのが当たり前だが、これは決して世界の常識ではないことを忘れてはいけない。日本人は飲食・入浴・洗濯・水洗トイレなどで、一人当たり一日約二百九十リットルもの水を使っているそうである。その一方で、世界では約七億人の人々が生きていくために必要最低限の三リットルの水すら手に入らず苦しん

でいるという。さらに調べると、実は、日本は国土が狭く人口が多いため、国民一人当たりの水資源量は世界平均の二分の一程度しかなかった。この現実をしつかり受け止め、私たちは、水の大切さをもう一度考え直さなければならぬ。無駄をはぶく意識もしつかり持って生活しなければいけないと思う。私たちが使った水が循環し、世界のどこかの人のための水になると思うと、水をきれいな状態で循環させることも考えなければいけないだろう。

私の通う学校では、通学中のごみ拾い運動を行っている。小さな活動だが、もし日本中の中学生がこの活動をして、一人一つのごみを拾うだけでも、一日約三百二十二万個のごみがなくなることになる。毎日行えば、その三百六十五倍だ。小さな活動も、決して小さなことではなくなると思う。歯磨きの時に水を流しっぱなしにしないことも同じだろう。日本中の家庭が、生活用水の節水を行ったり、生活排水を少しでも減らし、きれいにする努力を行ったりすることの大切さをあらためて考えさせられる。今、プラスチック製品の減量が進められ、私たち中学生でも買物にマイバックを持参するようになった。水を守るためには、水だけでなく、空気や土壌も守らなければならない。それは、自然環境のすべてが連鎖しているからだ。

和牛繁殖農家になるという夢の実現のためにも、私は環境問題に興味を持ち続け、水を守るために自分にできる小さなことをやり続けようと思っている。将来、私が育てる牛も、おいしい井戸水で健康に育ってほしい。五年に一度の和牛オリンピックで、前回は鹿児島県に総合優勝を奪われたが、「宮崎牛」がずっと日本一を守り続けられるように頑張りたい。